

広報誌

ひだまり plus

Aki General Hospital Rehabilitation Team provides a wide spectrum of clinical services to improve the quality of life and foster independence for patients with all types of disabilities.

VOL.16
TAKE FREE

CONTENTS

【特集】
リハビリって奥が深い!

あき総合病院の「リハビリ」のすべて

- お薬のはなし
- 管理栄養士ごはん



高知県立あき総合病院
Aki General Hospital

外来診療一覧表

背景あり の表示は再診の予約患者さんのみですのでご注意ください。また、精神科と禁煙外来は完全予約制となっています。
医療機関の方へ…毎曜日午後の脳神経外科と木曜日午後の神経内科については、初診の予約を受け付けています。

下記の診療一覧表は平成29年12月1日時点のものです。学会や緊急手術、異動などにより担当医師が変更となる場合もございます。ご了承ください。

診療科	時間	曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
外科	午前のみ		前田博教 直木一朗	直木一朗(緩和ケア外来) 山本盛雄	直木一朗	山本盛雄 ストーマ外来	直木一朗 前田博教	
形成外科	午前のみ				高知大医師			
脳神経外科	午前	中居永一※			中居永一※			
	午後						高知大医師(第1・3・5)	
胸部・心臓血管外科	午後のみ			渡橋和政(第4) 高知大医師				
※初診の受付は10時30分～11時30分まで								
A 外来	内科	午前	森尾真明 的場俊 刑部有紀	緒方巧二 的場俊 山田亜梨奈	森尾真明 緒方巧二 刑部有紀	森尾真明 的場俊	緒方巧二 高知大医師	
		午後	糖尿病外来					
B 外来	消化器内科	午前	大崎純子		高知大医師		大崎純子	
		午後					高知大医師	
C 外来	呼吸器内科	午前			水田順也		水田順也	
		午後		高知大医師、禁煙外来	高知大医師			
D 外来	循環器内科	午前	桑原昌則	古野貴志	吉本光広		古野貴志	
		午後	高知大医師	ペースメーカー外来		桑原昌則		
E 外来	神経内科	午前		吉村公比古(奇数月第2)			古谷博和	古谷博和(月1回)
		午後						
F 外来	整形外科 (リウマチ科) (リハビリテーション科)	午前のみ (受付10時まで)	森澤豊 今里滋宏 古月拓己	市川徳和(月1回) 森澤豊 寺西裕器			森澤豊 古月拓己	
		午前のみ					砥谷和人	
G 外来	血液内科							
H 外来	小児科	午前	前田賢人、佐藤哲也	前田賢人	高知大医師	佐藤哲也	前田賢人、佐藤哲也	
		午後 診察14時30分～ (受付14～16時)	前田賢人 佐藤哲也	乳児健診	高知大医師	予防接種	前田賢人 佐藤哲也	
I 外来	あっぷるクリニック	午前のみ			前田賢人			
J 外来	小児外科	午後		大島 雅之(第1・3・4)				
K 外来	耳鼻咽喉科	午前	西山正司 高知大医師		西山正司 (受付10時まで)	西山正司 (受付10時まで)	西山正司 (受付10時まで)	
		午後	西山正司	西山正司	西山正司		西山 正司	
L 外来	皮膚科	午前	廣瀬康昭	廣瀬康昭		廣瀬康昭	廣瀬康昭	
		午後(受付13～16時)			廣瀬康昭			
M 外来	泌尿器科	午前	安田雅春	応援医師	安田雅春、高知大医師		応援医師	
		午後	安田雅春	応援医師	高知大医師		応援医師	
N 外来	産婦人科	午前	岡田真尚 山本慎平	岡田長正 (受付11時まで) 山本慎平	岡田真尚 山本慎平	岡田真尚 がん検診外来	岡田真尚 高知大医師	山本慎平(第2・4)
		午後 (受付14～15時30分)	岡田真尚 山本慎平 母乳外来	1ヶ月検診 母乳外来			岡田真尚 山本慎平 母乳外来	
O 外来	眼科	午前(受付11時まで)	吉田和之、高橋政雄	吉田和之、高橋政雄	吉田和之、高橋政雄	吉田和之、高橋政雄	吉田和之、高橋政雄	
		午後 (受付14～16時)	吉田和之 高橋政雄		吉田和之 高橋政雄	吉田和之 高橋政雄 福島敦樹(月1回)	吉田和之 高橋政雄	
P 外来	精神科	午前	新患 再診	津田敦 津田敦 村上洋文	村上洋文	五十嵐徹 津田敦 村上洋文	峯瀬正祥 五十嵐徹 津田敦 村上洋文	澤田健 村上洋文



クロスワード(10ページ)の答え:メザセゲンキ

- リハビリって? 2-3P
- 当院でのリハビリの実際 4-5P
- いろいろなリハビリ 6-7P
- 役に立つ老化防止法 8-9P



特集 「あき 総合のリハビリ」

島岡PT

あき総合HP リハビリテーション科	
リハビリスタッフ数	
言語聴覚士	2名(男性1名、女性1名)
作業療法士	7名(男性4名、女性3名)
理学療法士	9名(男性6名、女性3名)
リハビリ業務補助	1名(女性1名)

施設基準

- 脳血管疾患等リハビリテーション料(1)
- 廃用症候群リハビリテーション料(1)
- 運動器リハビリテーション料(1)
- 呼吸器リハビリテーション料(1)
- がん患者リハビリテーション料
- 摂食機能療法
- 精神科作業療法
- 精神科ショート・ケア、デイ・ケア(大規模)
- 地域包括ケア(病棟入院料等のリハビリテーションの基準)

高齢 齡化の進む県東部地域の中で、あき総合病院は様々なニーズに応える「総合病院」としての役割を担っています。そのためリハビリテーション科でも、整形外科をはじめ、脳血管、外科、内科、精神科疾患など幅広い病気に対応できる「総合病院」としてのリハビリテーションをを目指しています。特に手術後などの急性期に、全身管理をしながらの廃用予防と機能回復に特化した「急性期リハビリテーション」を積極的に取り組んでいます。また、地域の病院や施設、住宅へのスムーズな連携が図れるように多職種でリハビリテーションチームとして協働しています。

3 地域におけるあき総合病院のリハビリ

さうに、あき総合病院では「地域がん診療病院」指定に向けて取り組んでおり、リハビリテーション科でも平成29年3月からがん患者リハビリテーションの施設基準を取得しています。これからも地域の皆様に信頼されるリハビリテーション科を目指してまいります。



日 本において、リハビリ専門職の養成が始まり、病院で働くようになつたのは昭和40年代です。この頃のリハビリは労働災害によりケガをされた方が主な対象でした。しかしその後、「食の欧米化」の影響による脳卒中、心臓病、がんの増加に伴つてリハビリの対象者も大きく変化してきました。最近では、リハビリ対象の多くの方が高齢となっています。高齢の方では、複数の病気や生活習慣病を併発していることが問題です。例えば「心臓病後に脳卒中を発症してしまう」、「脳卒中後に肺炎、骨折を起す」などです。筋力低下や栄養不足で肉体的に虚弱である場合も少なくありません。このため特に高齢の方では、リハビリをできる限り早期に開始することが重要で、生活習慣病の予防や体力、筋力の維持を目的とした予防的対策も必要になります。



1 「リハビリ」つい?

リハビリは英語で(rehabilitation:リハビリテーション)。これは(re-) = 「再び」と、(habilis) = 「適した状態」というの言葉を合わせたもので、直訳すると「再び適した状態になる」となります。国外では身体障害の回復だけでなく、社会的な立場や権利の「復帰」「復権」の意味で使われる言葉です。

つまりリハビリでは、その人の本来あるべき姿や、その人が本来居るべき場所(職場や家庭環境など)へ復帰していただきたいことが目標です。われわれリハビリテーション科は、内科や外科などのドクターまたナースをはじめとする多くの専門職と協力し、患者さんの社会復帰を支援する診療科と言えます。

リハビリは英語で(rehabilitation:リハビリテーション)。これは(re-) = 「再び」と、(habilis) = 「適した状態」というの言葉を合わせたもので、直訳すると「再び適した状態になる」となります。国外では身体障害の回復だけでなく、社会的な立場や権利の「復帰」「復権」の意味で使われる言葉です。

つまりリハビリでは、その人の本来あるべき姿や、その人が本来居るべき場所(職場や家庭環境など)へ復帰していただきたいことが目標です。われわれリハビリテーション科は、内科や外科などのドクターまたナースをはじめとする多くの専門職と協力し、患者さんの社会復帰を支援する診療科と言えます。

2 高齢社会で必要なリハビリ

最近では、リハビリ対象の多くの方が高齢となっています。高齢の方では、複数の病気や生活習慣病を併発していることが問題です。例えば「心臓病後に脳卒中を発症してしまう」、「脳卒中後に肺炎、骨折を起す」などです。筋力低下や栄養不足で肉体的に虚弱である場合も少なくありません。このため特に高齢の方では、リハビリをできる限り早期に開始することが重要で、生活習慣病の予防や体力、筋力の維持を目的とした予防的対策も必要になります。

最近では、リハビリ対象の多くの方が高齢となっています。高齢の方では、複数の病気や生活習慣病を併発していることが問題です。例えば「心臓病後に脳卒中を発症してしまう」、「脳卒中後に肺炎、骨折を起す」などです。筋力低下や栄養不足で肉体的に虚弱である場合も少なくありません。このため特に高齢の方では、リハビリをできる限り早期に開始することが重要で、生活習慣病の予防や体力、筋力の維持を目的とした予防的対策も必要になります。

3





退院



退院後の生活のための具体的なシミュレーション

退院に向けて各患者さんのライフスタイルに合わせた運動・動作練習を行う時期です。この患者さんの場合、ハウスでのなす作りをするために畑での歩行や中腰動作、伸び動作などが必要と思われますので退院前に実際に実施していきます。例えば和式生活をされている患者さんなら床からの立ち上がり動作や和式トイレへのしゃがみ動作練習などを行います。場合によっては直接ご自宅に訪問し調査・指導致します。



ダイナミックな運動療法

症状を回復させるための土台(体力)作りの時期です。体力には持久力だけでなく筋力や柔軟性、瞬発力なども含まれてあり、これらを伸ばすための機能向上練習や立位バランス、歩行練習などを安全な環境下で行います。



ベッドサイドでの合併症予防

発症早期は体内的血流循環が不安定な時期ですが、寝たきり・寝かせきりに伴う褥瘡や肺炎、拘縮、筋力低下などの合併症を予防することは重要です。写真は安静に伴う筋委縮や麻痺の改善を目的に電気刺激を行っています。

退院



回復期リハへ

当院での入院期間中に十分なリハビリの効果が得られなかった場合や更なる向上が見込める場合回復期リハビリテーション病棟を有する病院への転院を勧めることができます。なお、回復期リハ対象の疾患は脳血管疾患や大腿骨・脊椎骨折、肺炎、外科手術後の廃用症候群などとなっています。



退院後の役割を想定して

生活状況や家庭での役割に即した生活動作練習(そうじ・洗濯・料理など)を実施します。ご希望によっては調理練習を実施し、献立の立案～調理(野菜を切る・お米を研いで炊く)～試食～片づけまで一連の家事動作を練習し、家庭復帰に向けて少しずつ準備していき次のライフステージに繋げていきます。



日常生活動作向上に向けて

リハビリテーション室へ出棟し、麻痺側の手指・上肢の機能練習も作業療法のさまざまな物品を用いて実施します。また基本動作練習から応用動作練習に移行(例えはトイレ内の動作で下衣の上げ下ろし練習)していきます。



次の生活ステージに合わせた言語訓練と必要な情報の提供



言語能力や嚥下能力の目標設定と訓練

評価した結果より、障害の予後予測をし、患者さんの治療方針に沿って言語訓練を行います。



ベッドサイド(リハ前期)

ベッド周辺動作の自立を目指して

廃用症候群予防を目的に、四肢の関節を動かす運動から始めます。またクッション等を用いて、ベッド上で安楽肢位を保てるよう工夫します。安静度に応じて段階的に離床していきます。離床の許可がでましたら、早期に基本動作練習(起き上がる・立つ・歩く)を実施しベッド周辺動作の自立を促します。



ST 言語・口腔・嚥下障害

ことばを理解したり伝える力がどの程度あるか言語理解、表出能力の評価を行います。また、顔面や口腔、発声発語器官の運動機能や感覺機能を評価します。また、安全に飲み込むことができる嚥下能力があるかどうかといったことを評価します。

あき総合病院でのリハビリテーションの実際

リハビリ専門職には理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)の3職種があります。実際のリハビリではこの3職種が別々に治療を行うのではなく、それぞれの分野を分担して治療を進めていきます。さらに医師をはじめとした病院内スタッフと地域で活動する介護職の方々、また何より患者さんご本人とそのご家族を合わせてはじめて効果的なリハビリテーションを行うことができます。



脳血管症例のリハビリテーション

事例紹介

*架空の人物です
60歳代、女性。ハウス作業中に右手指の痺れと歩行困難が出現。家族が救急連絡し当院受診、左脳梗塞の診断にて入院となりました。右片麻痺・構音障害・失語症を認めます。高血圧、変形性膝関節症の既往症があり、自宅での生活は自立、ハウスでなすを作っていました。夫との二人暮らし。

【リハビリテーションの目標】

患者さんの上下肢の麻痺はstageIIと重度で失語症も呈していますが、発症早期に受診され点滴治療を開始できること、比較的若年であること、認知がしっかりしていることから十分回復の余地はあると考えます。各生活動作が自立し自宅復帰することを目標とします。

PTの目的
(理学療法)

麻痺の部位の改善と残存機能・能力の強化、基本動作(寝返り、起き上がり、移乗など)および移動動作(歩行など)の再獲得を目的に治療を行います。治療が進むにつれて下肢への負担が大きくなるので変形性関節症が悪化しないよう物理療法や徒手療法により予防も実施します。

OTの目的
(作業療法)

作業療法は、食事や入浴、トイレや着替えなど「日常生活動作」のすべてを視野に入れ、その方の生活状況に合った動作練習や、生活を助ける「自助具」を提案し練習することで、失われた機能の回復と向上を目指します。

STの目的
(言語聴覚療法)

脳の病気により、失語症や高次脳機能障害により言葉を理解することや話すことが難しくなった方や構音障害で呂律が回りにくくなったり、また、食べ物をうまく飲み込んだりすることが出来なくなる嚥下障害のある方へリハビリを行います。



廃用症候群のリハ

中田OT

対象

大きな手術後や長期の寝たきり状態で、体力や筋力が低下した患者さんが対象となります。

概要

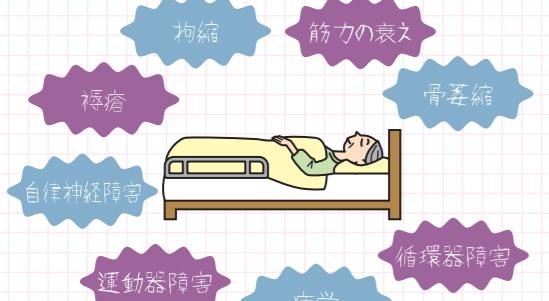
病気やけがで入院された方は、安静にして寝ている事が多くなります。この状態を長く続ければ筋肉や骨、関節、心肺機能、認知力など様々な組織・能力が低下し、病気やケガが治っても「歩けない」「起き上がれない」状態になります。この様な状態を廃用症候群と呼び、特に高齢者は寝たきりの原因となります。

廃用症候群のリハビリでは早期離床・環境調整、介助方法の指導等、入院初期から介入を行い、廃用症候群を予防します。

また、自宅退院の際は住宅改修や適切な介護サービス提供を多職種と共に検討・導入し、退院後も廃用症候群を起こさない様に努めています。

廃用症候群とは

身体を使わないとあらゆる面で機能が衰える。



呼吸器のリハ

谷岡PT

対象

肺炎やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）、慢性呼吸器疾患の急性増悪、人工呼吸器管理下、呼吸器や消化器の手術後の患者さんが対象となります。

概要

呼吸器リハとは、病気やケガによって呼吸器に障害が生じた患者さんに對し、機能回復や機能悪化防止を促すためのリハビリテーションです。

呼吸器リハの目的は「患者さんの呼吸困難感を軽減すること」と「体力面の強化」です。

そのため

- ①胸郭や呼吸に使う筋肉の柔軟性を保つ
- ②呼吸に関連する筋力の向上
- ③下肢筋力の強化
- ④有酸素運動（歩行など）
- ⑤排痰法の指導
- ⑥適切な呼吸方法の指導（日常生活、呼吸困難発生時）

といったメニューの中から患者さんの病状や生活環境に適したプログラムを作成し呼吸器リハを実施しています。

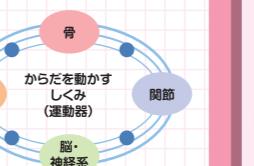


運動器のリハ

岩本PT

対象

骨折、外傷などの主に整形外科の患者さんが対象となります。



概要

運動器リハとは、骨折などの運動器の疾患をもつ患者さんに対して、運動療法（ストレッチや筋力強化）、物理療法などで身体機能の回復を図るもので

運動器リハビリテーションの実際

ケガの受傷直後や手術前後から患者さんそれぞれの痛みや体を支える重みなどに応じて個別に対応しています。また変形性関節症やスポーツ障害の方に對し、歩行補助具の選定、自主訓練指導、スポーツ動作指導などを行っています。

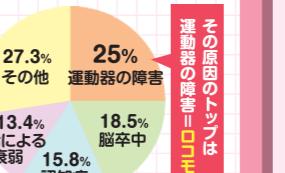
【リハビリの内容】

- 運動療法（ストレッチ・筋力強化・バランス練習など）
- 物理療法（温熱・寒冷・電気・牽引療法など）
- 日常生活動作練習、自主練習指導、姿勢・動作指導

国民の悩みは運動器障害！

厚生労働省による「平成25年国民生活基礎調査」によると、支援・介護が必要となった原因の1/4を運動器疾患が占めています。この運動器の障害はロコモ症候群とも言われ、日常生活や仕事を困難にし、生活の質を低下させる非常に恐ろしい病気です。

支援・介護が必要となった主な原因



平成25年厚生労働省国民生活基礎調査より



精神科のリハ

山本OT

対象

精神科疾患で障がいをお持ちで、生活のしづらさを抱える方が対象です。

概要

【精神科作業療法】

精神科作業療法とは、精神障害の方に対するリハビリテーションのひとつです。病気や障がいにより「生活のしづらさ」を抱える方々に対し、個別あるいは他の人たちとの関わりの中で、ご自身が主体的に参加することで、その人にとってその人らしくより良い生活が送れるように支援します。

健常な機能に働きかけ、またその人を取り巻く環境整備をすなとして、自信や希望の回復・生活技能の獲得を目指します。用いる作業活動は、スポーツ・音楽・創作活動などの楽しむ活動や料理・買い物など日常生活に関連するものまで様々です。

【精神科デイケア】

精神科デイケアとは、病気の再発防止や地域生活の向上などを目的としている精神科リハビリテーションのひとつです。日中、仲間と共にスポーツや話し合いなど様々な活動に参加しながら、規則正しい生活習慣を身につけ、病状の安定を図ります。

スタッフとその役割

当院では医師、看護師、心理判定員、作業療法士などの多職種が協同して、利用者の方々の意向や症状等に応じて利用計画を作成しています。

実施日時

月曜日～金曜日の9:15～15:45まで（祝日を除く）実施しています。



がんのリハ

中山OT

対象

がんの患者さんの中で病気の進行や治療による障害がみられる方が対象となります。

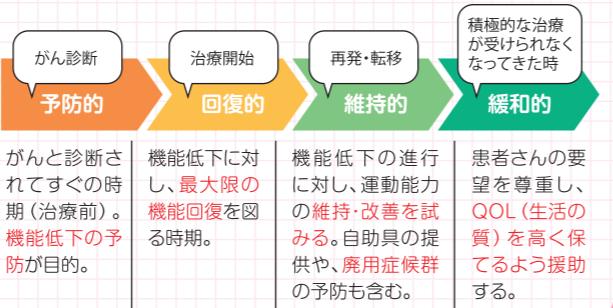
概要

がんリハビリテーションは、がんやがんの治療により生じた障害に対し、種々の運動療法、日常生活訓練、物理療法等を組み合わせて、障害の予防や緩和、能力の回復を図るもので

- 骨への転移による痛みや骨折
- 脊髄転移による麻痺や排尿障害
- 腫瘍が末梢神経を巻き込むことによるしづれや筋力低下
- 抗がん剤治療や放射線治療による筋力や体力の低下
- 胸部や腹部の手術後に起る肺炎などの合併症
- 乳がんの手術後などに起る肩関節の運動障害
- 舌がんや甲状腺がんなど頭頸部の治療後に起こる嚥下・发声の障害など

治療や療養の時期におけるがんのリハビリーション

【がんのリハビリテーションの病期別の目的】



心臓のリハ

三宮PT

対象

心筋梗塞、狭心症、心不全、開心術後の心臓疾患、閉塞性動脈硬化症などの患者さんが対象です。当院では、心不全と心筋梗塞が多く上位を占めています。

概要

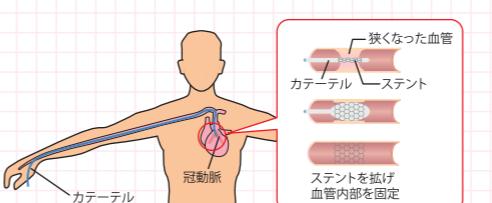
以前は心臓病の方はできるだけ安静で動かないことが望ましいとされていました。しかし、最近では早期離床・早期リハビリテーションの有用性が確立されています。

現在、心筋梗塞発症後の患者さんに対して、ステント治療などの心臓カテーテル手術が行われるようになりました。しかし、血流が再開した後も心筋収縮力の低下や心臓の線維化を招き、心不全の発症につながると言われています（=心室リモデリング）。

そのため心臓リハでは、足や手の筋肉同様、横紋筋でできている心臓の筋肉を可能な範囲鍛えることで再発・再入院の予防に繋げています。また、食事療法や薬物療法、禁煙も大切です。

当院では、医師、看護師、薬剤師、栄養士など多くの専門医療職が関わり、患者さんの状態に応じたプログラムを提案・実施しています。

心臓カテーテル手術の図式



脳血管のリハ

中村OT

対象

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳血管疾患や、転倒や事故による頭部外傷で脳へ損傷を受けた方が対象となります。

概要

脳血管疾患（脳卒中）は、日本人の死因の第4位を占める病気で、なかでも多いのが脳梗塞です。脳梗塞を発症すると、以下のようない状況があります。

運動麻痺

- 左右どちらかの手足が動かない
- 歩けなくなったり、よくつまずいたりする
- 洋服のボタンが留められない、ご飯のときお箸が上手く使えない

感覚障害

- 片側の顔や手足がしびれる、痛みや温度が分かりにくい

高次脳機能障害

- 失語：言葉が出てこない、相手の話が理解できない
- 失行：道具を上手く使えない、動作がぎこちない
- 失認：物の形や色が分からず、人の顔が判別できない

あき総合病院では平成27年より脳神経外科医が常勤し、平成29年からは医師2名体制となりました。それに伴い脳神経外科の入院患者数や手術件数も増加し、脳血管リハの重要性も高まっています。脳血管リハでは麻痺や身体機能に対する理学療法、日常生活動作に対する作業療法、言葉や嚥下に対する言語療法の全てが行われます。各リハビリの流れについては前ページをご覧下さい。

こんなにもある、専門リハビリの種類

ひとくちにリハビリと言っても、対象となる病気やケガによってリハビリの内容は変わってきます。ここでは、あき総合病院で行っている専門リハビリについてみてみましょう。

私たち言語聴覚士が
担当しています。



言語障害に対する リハビリテーション

一言で言語障害といっても、その原因には様々なものがあります。ここでは、病気や事故によって脳が損傷されたために起こる言語障害や言語リハビリテーションをお話しします。

失語症とりハビリテーション

失語症とは言語障害の一つで、脳の言語中枢が損傷を受けることによって、話す・言葉を理解するといった機能に困難が生じる状態です。医師の処方により、言語聴覚士は失語症の治療を行います。

代表的な失語症検査のひとつに「SLTA(標準失語症検査)」があります。



構音障害とりハビリテーション

脳の障害や神経・筋肉に病変が生じて、話すことに必要な運動機能が障害される場合を運動障害性構音障害といいます。このような場合、患者さんの口腔内や口腔機能、発声発語器官や発話の評価を行います。

そして、患者さんのご要望を聞きながら発話に関する目標を設定しリハビリ内容を考えます。

嚥下障害について

脳の障害や神経・筋肉の病変では、飲み込むことに困難が生じる嚥下障害が重度の患者さんの場合、嚥下リハビリを行うとともに、栄養管理においてもサポートされることがあります。そのような場合、言語聴覚士は早期にリハビリ介入を行い、誤嚥や窒息を予防していくような働きか

けを行い、口の廃用予防を行います。嚥下障害が重度の患者さんの場合は、注意機能や記憶、認識、行為、情緒などに障害が生じる状態をいい、その症状は多岐にわたります。言語聴覚士は検査や評価を行い、理学療法士や作業療法士、

高次脳機能障害と リハビリテーション

高次脳機能障害とは、脳の損傷により、注意機能や記憶、認識、行為、情緒などに障害が生じる状態をいい、その症状は多岐にわたります。言語聴覚士は検査や評価を行い、理学療法士や作業療法士、心理判定員など多職種から情報を得てリハビリテーションや生活復帰に向けた支援を行います。

家族指導や地域連携について

これらの失語症や高次脳機能障害、構音障害などで、コミュニケーションがとりにくくなったりした患者さん、また嚥下障害のある患者さんが療養型病院や施設などに移られる時は、言語リハビリの評価やリハビリの経過を情報提供して連携を図つ

ています。またご自宅に帰られる時には、患者さんのご家族や介護に関わる方々に対して、コミュニケーションのポイントや嚥下障害に注意した食事介助に関するなどを指導したりもしています。

家族指導



自宅で行える! 筋力低下予防運動

関節痛がある場合には無理をせず、痛みのない範囲での運動を実施してください。筋力増加は急には起こりません。日々の積み重ねが大切です。無理のない範囲で続けていきましょう。

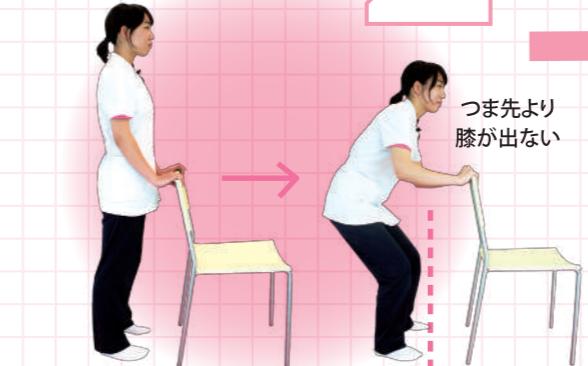
STEP 1 膝伸ばし

1



STEP 2 膝曲げ

2



STEP 3 踵上げ

3



つま先を上げることで
効果に大きな違い!!

△ つま先を上げない
○ つま先を上げる

膝伸ばし運動の際、「つま先を上げない」か「つま先を上げる」かで運動効果は大きく違います。図は、実際の運動中の筋電図です。波形が大きいほど、大きく述べていることを意味していますが、つま先をあげた方が大きい活動となっています。

あなたの老化度チェック表

寝たきり状態では1日に約1~3%、1週間後では10~15%の割合で低下し3週間後では50%の筋力低下を認める報告されています。筋力低下は最も転倒に関係している、筋力低下がある方はない人に比べ4.4倍も転倒の確率が上がると言われています。

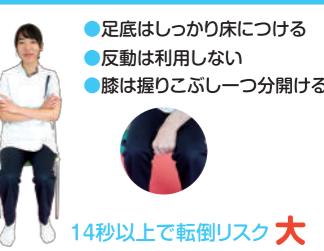
▶閉脚立位



▶片脚立位(閉眼)



▶立ち上がりテスト



今日からできる 転倒予防!

20歳代と比較すると80歳代では約50%も筋力が低下しています。

